定数改善計画の早期策定・実施と義務教育費国庫負担制度

の堅持及び拡充を求める陳情書

討論要旨 櫻井直樹議員

定数改善計画というのは、学級の定数を40人学級から35人学級に、さらに30人学級へと少人数学級の拡充を進めていく計画です。小学校は、今年度で全学年が35人学級になりましたので、1つの学年の人数が70人なら2クラスですが、70人を1人でも超えると3クラスになります。子供の人数を72人とすると、3で割ると、1クラスの人数が24人になります。35人と24人では本当に大きな違いがあり、子供たちにきめ細かい教育を進めることができます。

しかし、中学校に目を向けてみますと、中学校は1年生だけが35人学級で、中2、中3は40人学級のままで、中1から中2に学年が上がると、学級の数が減る場合があり、学級数が減れば教室の中の生徒数が増えることになります。このことを教室の広さでちょっと考えてみますと、教室の中の机の配置ですが、横が6列。7列はちょっと無理なんです。通路が狭くて教師が机間指導できません。横は6列、縦も6座席で6、6、36がぎりぎりで、36人を超えて37人や38人になると縦に7人目ができちゃう。一番後ろの生徒は、後ろのロッカーぎりぎりで座っている状態になります。

教師が机間指導するときも、一番後ろは通路がない、一番後ろの生徒がロッカーぎりぎりになっていますので、通路がないので、通れません。おまけに中学2年生になると、体も1年で大きくなりますので、1年生のときと比べると、教室の中が一気に狭く感じます。

今年の旭中学校と東中学校3年生をちょっと調べてみますと、1クラスが39人と40人の学級になっています。体の大きい中学3年生が39人や40人の学級は、とても学級担任の先生や教科担任の先生は大変だと思います。また、学級数が減れば、それに伴って教員の数も減ります。1年生のときよりも少ない人数の教員で指導することになり、教育にゆとりがなくなります。

このような理由から、中学校でもいち早く全学年を35人学級にするべきです。また、義務教育費の国庫負担制度の堅持は言うまでもありません。その負担率を2分の1に戻すことも、子供たちの教育の充実のために必要なことと考えます。

以上の理由から、私の賛成討論とさせていただきます。